まこと

Volume 60 No.7
JULY 2013

８代庁長就任奉告祭執行（6/15）

Tenrikyo Mission Headquarters of Hawaii

ハワイ伝道庁60年小史

ハワイ伝道庁は来年創立60周年を迎える。この時旬を機に、あらためてハワイ伝道の歩みを回顧し、管内の教友が自身の「もと」をたずね、今後のハワイ伝道への指針を探る、というねらいで、今後約2年間の予定で連載する。執筆担当は『天理教ハワイ伝道庁五十年史』を編纂された中尾善宣氏。

二代真柱様初のハワイご巡教

1931年当時、おぢばでは教祖50年祭を前に、教祖殿、南礼拝場の普請の真最中で、二代真柱様（当時27歳）は教団の先頭に立って陣頭指揮を執っておられたが、1933年シカゴで開催された世界宗教大会に出席の途次ホノルルにご寄港された。

当時ハワイには6教会が設立されており、会長教信者が心を一つに真柱様を歓迎した。6月22日ホノルル港に到着され、港からキングストリートをパレードして、マカレーの太平洋教会にご参拝され、新築の吉岡角太郎（教会役員）宅に一週間滞在された。太平洋教会、ヒロ教会の2教会に於いて地方講習会が開催された。

二代真柱様は、著書『アメリカ百日記』の中で「今日の布哇の道、それは更に一段と強い信仰意識を以って団結する時である。而して此新しい力と自覚とをもって第二世、延いては他の民族の人々へと働きかけるべき切迫した時旬なのである。」「私は布哇に対して云い知れぬ親しみを感じ、彼等から想像もつかぬ程強い力を与えられたのである。而して短かすぎた旅程を後悔せずには居られなかった」と記されている。

奉告祭役割

奉告祭役割

祭　主	山中修吾庁長	
扈　者	美馬孝俊	柿谷節生
賛　者	川崎カイル	桧垣ダニエル
指図方	三國クライド	
献饌長	中尾オーエン	

	座りづとめ	前半	後半
てをどり	真柱様	G.明本	S.社本
(男性)	庁　長	M.稲福	T.岩田
	Y.中尾	E.高田	D.桧垣
てをどり	庁長夫人	M.岩田	T.中尾
(女性)	M.柿谷	K.齋藤	L.本田
	J.山	C.浜田	R.宮内
笛	T.西村	S.柿谷	D.明本
チャンポン	R.山	S.中尾	T.友松
拍子木	M.社本	T.美馬	W.城
太鼓	C.三國	O.中尾	G.井元
すりがね	G.本田	M.久尾	D.川崎
小鼓	C.齋藤	W.三國	B.岩田
琴	M.三國	L.蘇	Y.一瀬
三味線	C.明本	S.柿谷	S.久尾
胡弓	Y.西村	N.椎葉	S.中尾
地方	山澤本部員	T.一瀬	Y.宮内
	宮森本部員	B.木村	S.椎葉
	M.岩田	T.井上	K.川崎

楽人

龍　笛	西村忠正	社本ミカ
篳　篥	社本正登司	明本ダニエル
鳳　笙	社本アレン	
太　鼓	中尾モーゼス	
鉦　鼓	明本千代	
鞨　鼓	社本スコット	

庁長就任奉告祭祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前にハワイ伝道庁長山中修吾慎んで申し上げます。

親神様には、一れつ人間の陽気ぐらしを楽しみにこの世人間をお創り下され、今日まで限りない親心をもって日夜絶え間なく御守護下さり、お育て、お仕込み下さいますご高恩の程は、誠に勿体なく有り難い極みでございます。

本年4月26日、教会本部教祖殿にて御存命の教祖より、第八代ハワイ伝道庁長の理のお許しを戴きましたので、おぢばより真柱様の御臨席を賜わり、また随行の山澤廣昭本部員、宮森与一郎本部員のお入り込みを頂き、今日の吉日に事の由を申し上げ、おつとめ奉仕者一同と参拝に集まった管内のよふぼく信者一同が心を一つに合わせ、ただ今から、ぢばの理を戴いて、座りづとめ・てをどりを陽気に勇んで勤めて、就任奉告祭を執り行わせていただきます。

今後は、諸先輩方が長年に亘る真実と苦労をもって築き繋いで下さったこのハワイの道をしっかりと受け継ぎ、親神様の御守護を戴き、ご存命の教祖のお導きを固く信じ、ひながたを頼りに、陽気ぐらし世界実現への歩みを全力で進めさせていただく覚悟でございます。管内の教会長、布教所長、よふぼく信者全員と心をつなぎ、言葉の壁を越えて夫婦親子の信仰的つながりの強化を促し、道の後継者育成に力を合わせ注ぎ、そして未だ御教えを知らぬ人々にも親の思召を伝え弘め、ひいてはハワイの道の更なる伸展に向けて、精一杯つとめさせていただく所存でございます。

何とぞ親神様には、この真実の心をお受け取り下さいまして、大きな御親心を賜わり、ハワイの地にこの道の更なる栄えをお見せ下さいますよう御守護の程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

八代庁長就任奉告祭

ハワイ伝道庁は6月15日、真柱様をお迎えして8代庁長就任奉告祭を執行。当日はオアフ島はもとよりハワイ、マウイ、カウアイの各島から総勢320名が参集。世界たすけの旬に勇み立つよふぼく、信者らは、真柱様のお言葉に一心に耳を傾け、「いまたすけあいのこの旬に、微笑みたたえてひのきしん」のスローガンを掲げて来年に迎える創立60周年に向かう決意を新たにした。

6月15日、当日のホノルルは穏やかな晴天。時折シャワーが降ったが、心地よい風が吹き抜け爽やかさを感じさせた。参拝場には朝早くから教友が詰め掛け入り切れなかった人たちは神殿階下ホールに設置されたモニターを見詰めながら祭典開始を待った。

午前10時からの祭典では、まず山中庁長が「諸先輩方が長年に亘る真実と苦労をもって築き繋いで下さったこのハワイの道をしっかりと受け継ぎ、管内の教会長、布教所長、よふぼく信者全員と心をつなぎ力を合わせて、言葉の壁を越えて家族の信仰的つながりの強化と道の後継者育成に力を注ぎ、ハワイの道の更なる伸展に向けて精一杯つとめさせていただく所存でございます」と祭文を英語で奏上した。続いて真柱様がお言葉に立たれた。

真柱様は、伝道庁の持つ意味・役割について丁寧に説かれ、この旬に一人ひとりが心の成人を目指し、同じ地域に住む道の子が一手一つに神一条の道を歩むことを促された。そして、教祖年祭を勤める意義とそれに向けての年祭活動の重要性について説かれ、「教祖は、子供可愛い一条の親心から現身を隠されたが、今なお存命のまま、たすけ一条の道の先頭に立ってお働き下されている。その教祖の親心に応える心を定め、ひながたを目標に教えを実践し、たすけ一条の道を一層活発に進めることが大切である」と強調された。

さらに「神一条の精神に徹して、一人ひとりがそれぞれの持ち場立場でのつとめに真実を尽くし、一人ひとりの足元から親神様、教祖の思召を伝え広め、一日も早く陽気ぐらしの世界が実現するよう、更に充実したたすけ一条の活動を、一手一つに展開していただきたい」と、積極的なにをいがけ・おたすけ活動への期待を述べられた。

真柱様を芯に座りづとめが陽気に勤められ、十二下りてをどりの後、山中庁長が真柱様にお礼を申し上げ、参拝者に英語と日本語で挨拶。

記念撮影後、レセプションが催された。ハワイ・ファイブ・オー（全米人気テレビ番組）のテーマソングの生演奏に合わせて真柱様が入場され、レイの贈呈、アロハバンド鼓笛隊の演奏、サンデースクール生徒の歌、フラダンスやタヒチアンダンス、各会代表参加によるダンスコンテストなどが披露された。

タヒチアンダンスに庁長夫妻が飛び入り参加（右）

レセプションは野外にテントを設置して行われた（左下）

真柱様は親しく教友の挨拶に応じて下さった（右下）

真柱様、管内6箇所の教会をご巡教

真柱様（随行、山澤廣昭本部員、宮森与一郎本部員）は、12日に来布され、翌13日、マウイ島にあるハレアカラ教会（岩田タッド会長）とマウイ教会（久尾マーク会長）へご巡教。また14日には、オアフ島のパール教会（中尾オーエン会長）、パラダイス教会（明本ジョージ会長）、マカレー教会（高田エリック会長）、淺草ハワイ教会（宮内泰次会長）へも足を運ばれ教友らをねぎらわれた。15日の夕刻には、伝道庁飛び地境内地の天理文化センターに足を運ばれ、日本庭園内にある神殿にご参拝、センター内に併設する天理柔道場と天理文庫を視察された。16日は伝道庁6月月次祭にご参拝、17日の午後にホノルルをお発ちになられた。

真柱様お言葉

本日は、ハワイ伝道庁の庁長就任奉告祭が、大勢の皆さん参集のもとで、盛大につとめられますことを、心よりお慶び申し上げます。

また、日頃は、ハワイの道の上に、いろいろと心を砕いてご丹精下さり、誠にご苦労様です。今日の日に、改めてお労い申しますとともに、奉告祭を意義あらしめていただきたいと思います上から、心に浮かびますことをお話しして、挨拶といたしたいと思います。

さて、私は伝道庁の役割の一つは、管内の教会長、よふぼく、信者の人々が、所属教会という枠を越えて寄り集い、教祖の教えを一層心に治め、実践することによって、陽気ぐらしを学び、身につける、たすけ一条の道場としての役割であると思うのであります。

それとともに伝道庁のもう一つの役割は、修理肥の芯として、管内の教会や布教所をいかに勇ませるか、よふぼく、信者の人々に、いかに成人してもらうかということを考え、常に心を配り、育てる努力を重ねて、同じ土地ところで暮らす道の子が、互いにたすけ合って活動出来るように、管内を修理丹精することであります。そして布教活動を活発にし、土地ところの教勢が進展する御守護を頂けるようにつとめることが、伝道庁の持つ役割であると思うのであります。

こうした伝道庁の役割を思い、そのつとめを遂行する上で心しなければならないことは、たすけ一条の源となるぢばの理を素直に受け、それを間違いなく流すということだと思うのであります。そのためには、関係する人々が意思の疎通を図ることはもとより、理を流すのでありますから、親神様の思召、教祖のお心をいかに間違いなく受け取り、伝えていくか、ということを常に思案していただきたいのであります。親神様の思召、教祖のお心に近づく努力をすること、神一条の信仰姿勢を忘れないでいただきたいのであります。

神一条の精神をもって、活動を進めていくというのが、修理肥の芯としての役割を持つ、伝道庁の根本的な姿勢でなければならないと思うのであります。

中でも、伝道庁長は、伝道庁の責任者という立場でありますから、その立場に相応しく、まず誰よりも、神一条の精神を養う努力をしていただきたいと思います。

また、皆様方にお願いしたいことは、伝道庁長の人は替わりましたが、伝道庁長の理は変わらないのであります。これまでと同様に、新しい庁長とともにハワイの道の発展の上に協力してつとめていただきたいと思います。

道の伸展は、教祖におたすけ頂いた人々が、にをいがけ・おたすけを心がけ、たすけ一条の道の上に地道な歩みを続けて、ご存命の教祖にお導き頂いた証であります。不思議なご守護を頂いた人々の感謝と喜びが、胸から胸へと伝えられ、陽気ぐらしを味わう人が増えて、今日の道の姿となったのであります。

このように、教勢が伸び広がる中で、講や布

教所ができ、さらには教会が生まれ、皆さん方はそれぞれどこかの教会に所属しているのであります。

そして、それぞれが所属する教会における活動だけでなく、同じ地域に住み、同じ教えを信じ行う者が、互いにたすけ合い、談じ合い、励まし合うことによって、一人ひとりの心の成人はいうまでもなく、土地ところの教勢が伸びていく御守護を頂けるよう、一手一つになることが大切であります。

おさしづのお言葉に、

皆心、一つの心に成りてくれ。一つに成れば強いもの。そも／＼の心では、どうしてやろうこうしてやろう、と言うたて、出来ん。そこで暇が要る。もうこれから、皆心というは、一人の心にようあれだけの心を揃うたなあというは、世界にどんな事も映る。これをよう皆々の心に持ってくれにゃならん。

（明治三七・一二・一四）

とあります。

みんなの心を一つに合わせ、持ち場、立場の上で一手一つにつとめれば強いものである。しかしながら、それぞれが自分の意見ばかりを主張するような、ばらばらの心では、どうしてやることもできない。一人の心に、よくもあれだけみんなの心が揃ったなあというようになれば、世界にどんなことも映っていくのだ、と、心通りの守護をお諭し下さって、お互いに、一つ心になって神一条の道を歩むようにお促し下さっているのであります。

改めて申すまでもなく、只今の時旬は、教祖の百三十年祭へ向かって、全教が一手一つに一丸となってつとめなければならない時であります。

今から百年余り前、教祖三十年祭を前にして、神殿普請をお急き込みになった一連のおさしづの一つに、

どうでも一つ、仕切り根性、仕切り力、仕切り知恵、仕切りの道、どうでもこうでも踏まさにゃならん。

（明治四〇・五・八）

と仰せられています。教祖の年祭への道は、私たちが、成人するために、どうでもこうでも通らなければならない「仕切りの道」なのだとお諭しになられつつ、時を仕切り、目標を定め、その達成に向かって、精一杯努力する決意と実行が、大切なことを教えて頂くのであります。

ご承知のように、教祖の年祭は、出直した故人を偲んで、つとめるというものではありません。

教祖は、子供可愛い一条の親心から、現身をお隠しになりました。しかし、教祖は、現身をお隠しになっても存命のまま、常に私たちの身近におわして、私たちをお見守り下さっているのであります。今も変わることなく、たすけ一条の道の先頭に立って、お働き下さっているのであります。

したがって、教祖の年祭をつとめさせていただく意義は、私たちお互いが、教祖の道具衆たるよふぼくとしての使命を自覚して、教祖の親心に応える心を定めるところにあります。教祖の子供可愛い一条の親心にお応えできるように、当時の状況に思いを致して思案を深め、をやの思いを尋ね返すとともに、成人を誓い合い、ひながたを目標に教えを実践し、教祖がお急き込みになったたすけ一条の歩みを、一層活発に進めることが、何よりも大切なのであります。

にをいがけ・おたすけは、親神様の思召を広めるための行いであります。それはまた、ご恩報じの行いであります。教祖は、自分がたすかって嬉しければ、人様に自分がたすかったことを真剣に話して人をたすけるようにと、お諭しになっておられます。身上や事情の悩みをかかえる人に対して、親身になって悩みを聞き、た

すかる道があることを教え、あるいは、積極的におさづけを取り次がせていただいて、人にたすかって貰いたいという心で日々を通ることが、ご恩報じの道であることを教祖は教えて下さったのであります。

一人でも多くの人々に親神様、教祖の思召を知ってもらい、自分たちと同じように道を通ってもらえるように、こつこつと努力を続けることは、教祖の道具衆たるよふぼくの使命であります。

おさしづに、

皆んな勇ましてこそ、真の陽気という。めん／＼楽しんで、後々の者苦しますようでは、ほんとの陽気とは言えん。

（明治三〇・一二・一一）

とお諭し下さっています。

世界中の人間はみな親神様の子供であり、お互いは兄弟姉妹であります。その兄弟姉妹が互いにたすけ合って、陽気に明るく暮らすのを見て親神様も共に楽しみたいとの思召から、人間をお造り下さったのであります。ですから、すべての人間が陽気ぐらしを味わえる世の中が、私たちの目指すところであります。それには、まず教えを信じる私たちが、家族や教会や身近な地域社会でのたすけ合いを実行することであり、そこから着実に一れつ兄弟姉妹の喜びの輪が広がっていくのであります。互いに立て合い、たすけ合うというのが、人間として最も基本的な生き方と言えるのであります。

幸福というものは、物の豊かさや環境によって決まるものではありません。どんな環境にあっても、明るく勇んだ陽気な心で日々を送るところに、真の幸福があり生き甲斐があるのであります。親神様によって生かされていることの有り難さ、かしもの・かりものの尊さ、もったいなさを知るところに、陽気ぐらしの根本があるのであります。

私たちのおたすけは、身上や事情の悩みをご守護頂いて、それで終わってしまうのではなく、親神様の思召を知ってもらい、その人が教えに基づいて暮らし、陽気ぐらしの喜びを味わえるように、心を尽くして導かせていただかなければならないのであります。

そのために大切なことは、まず自らが、親神様、教祖に心を繋ぎ、ひながたを素直に辿る努力をすることであります。日々に教えを実践し、教理を知識として留めておかずに、身につけることであります。

私は、この度の年祭活動を進めるにあたって、一人でも多くのよふぼくがおたすけを実行できるようになって、ご存命の教祖にお喜びいただきたいという気持ちを込めて諭達第三号を出しました。

これまでの道の歩みを振り返るとき、教祖の年祭を成人の節目として、にをいがけ・おたすけに、ぢばへの伏せ込みに真実を尽くし、ご存命の教祖にお導き頂くままに、節から節へと御守護頂いてきた道であることに思いを致し、成人への誓いを新たにすることが大切だと思うのであります。

教祖のひながたをしっかり思案して、「価を以て実を買う」心を定めることだと思います。教祖百三十年祭へ向かって、いかなる中も神一条の精神に徹して、一人ひとりが、それぞれお与え頂く持ち場立場のつとめの上に真実を尽くさなければならないと思うのであります。

どうか、一人ひとりの足元から、親神様、教祖の思召を伝え広め、一日も早く陽気ぐらしの世界が実現するよう、更に一層充実したたすけ一条の活動を、一手一つに展開していただきたいと思います。

皆さんの誠真実が、ふしから芽の出る御守護となり、これからもハワイの道がますます活発になることを願って、今日の挨拶といたしたいと思います。

（文責　山中修吾）

山中修吾8代庁長挨拶

ただ今は、真柱様、そして御随行の内統領山澤廣昭先生、海外部長宮森与一郎先生の御臨席を賜わり、ハワイ伝道庁８代庁長就任奉告祭のおつとめを、皆様と共に盛大につとめ終えることができました。誠にありがとうございました。

ハワイの地にお道が伝わり、最初の教会が設立されてから80年余りが経ち、伝道庁は来年で創立60周年を迎えます。祭文でも申し上げましたが、これまで、多くの先輩方が長年に亘る真実と苦労をもって築き繋いで下さったこのハワイの道をしっかりと受け継ぎ、管内の皆様と心をつなぎ力を合わせて、ハワイの道の更なる伸展に向けて、精一杯つとめさせていただく覚悟でございます。若輩で、まだまだ未熟者ではございますが、精一杯つとめさせていただきますので、皆様のご支援ご協力を賜わりますようお願い申し上げます。

とりわけ、この国において、初代から二代、三代、さらには非日系の方々へとお道の信仰が受け継がれていく中で、主要言語が日本語から英語へと移っていくのは自然な流れだと思いますが、その言葉の違いがお道の信仰の伝達を難しくしていることも否めません。ですが、「この度、世界一れつをたすけるために天降った」という親神様の教祖を通しての第一声に始まるこのお道は、文字通り「世界たすけの教え」であり、日本語英語にかかわらず、言葉の壁を越えて、むしろそれをプラスに転じて、この地で末代に伸び広がっていくはずです。

そのためには先ず、世界の人々よりも一足先にこの教えに導かれ、この信仰を受け継いできた私達が、誇りと使命感と自信を持って、ごく身近な人々にこの素晴らしいお道の教えと信仰を伝えていきましょう。言葉の壁を越えて、夫婦親子家族の信仰的繋がりの強化を促していくこと、英語日本語にかかわらず、管内の皆様と心をつなぎ力を合わせていくことが、私と妻に与えられた大きな役目であり、それを抜きにしてハワイの道の伸展はない、と確信しております。

本日頂戴いたしました真柱様のお言葉を、私たち一人一人が自分の心にしっかりと刻みつけて、今日から更に陽気に勇んで、神一条たすけ一条の道を歩ませていただきましょう。本日は誠にありがとうございました。

One World, One Family. Tenrikyo

6月月次祭役割

祭典役割

祭　主	山中修吾庁長	
扈　者	齋藤カーレン	稲福道興
賛　者	中尾スティーブン	岩田バート
指図方	山ロナルド	
献饌長	久尾マーク	

	座りづとめ	前半	後半
てをどり	真柱様	T.一瀬	W.三國
(男性)	庁　長	G.明本	K.川崎
	C.三國	M.久尾	G.井元
てをどり	庁長夫人	N.椎葉	A.綾川
(女性)	T.松川	S.久尾	L.長田
	M.三國	M.中村	M.井上
笛	M.社本	S.柿谷	M.中尾
チャンポン	T.西村	D.川崎	B.岩田
拍子木	R.山	C.齋藤	D.明本
太鼓	M.岩田	Y.宮内	B.美馬
すりがね	G.本田	M.稲福	S.椎葉
小鼓	T.美馬	T.井上	T.岩田
琴	C.美馬	R.井上	L.金城
三味線	Y.西村	M.山下	F.伊藤
胡弓	C.明本	S.中尾	Y.川崎
地方	山澤本部員	O.中尾	D.桧垣
	宮森本部員	E.高田	S.社本
	Y.中尾	S.中尾	J.蘇

楽人

龍　笛	西村忠正	社本ミカ
篳　篥	明本ダニエル	Kフォング
鳳　笙	社本アレン	岡村リサ
太　鼓	社本正登司	
鉦　鼓	明本千代	
鞨　鼓	社本スコット	

伝道庁7月月次祭
7月21日（日）午前9時
祭典講話：社本正登司
英語通訳：桧垣ダニエル

教会長・布教所長会議
次回　7月21日（日）　12：45～13：30

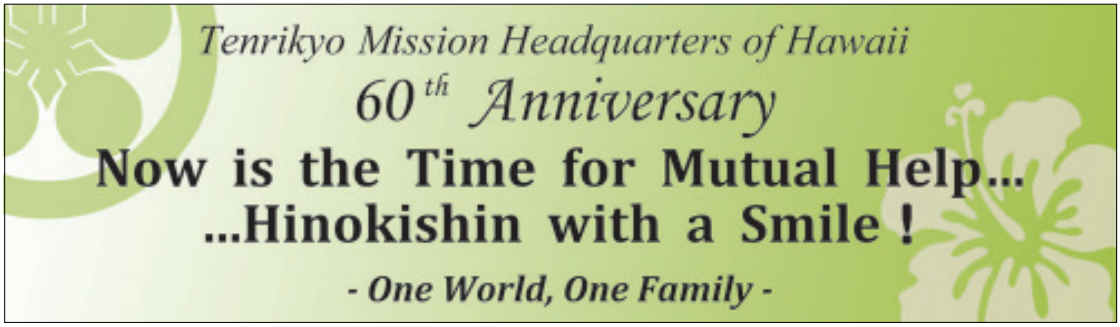
6月月次祭祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前にハワイ伝道庁長山中修吾慎んで申し上げます。

親神様には、一れつ人間の陽気ぐらしを楽しみにこの世人間をお創り下され、永の年月尽きぬ御守護と段々のお仕込みにより、私どもは今日の成人をお見せいただきましたご厚恩のほどは、誠にありがたく勿体ない極みと、朝夕御礼申し上げ、日夜ご恩報じの道を思い念じ、勇んでたすけ一條の道を歩ませていただいております。その中にも今日はこれの伝道庁の6月月次祭を執り行う日柄を迎えましたので、おつとめ奉仕者一同心を揃え、ただ今より座りづとめ・てをどりを陽気に勇んでつとめさせて頂きます。今日一日を楽しみに参り集いました道の兄弟姉妹がみかぐらうたを唱和し祈念するさまをもご覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます。

昨日、真柱様、ご随行山澤廣昭本部員、宮森与一郎本部員のご臨席を賜わり、八代庁長就任奉告祭を無事につとめさせていただきました。（天候の御恵みも頂戴し）一同心勇んでつとめ終えさせていただきました御守護のほど、改めて厚く御礼申し上げます。さらに今日は、就任奉告祭後の最初の月次祭を、真柱様と両本部員先生のご臨席を賜わりつとめさせていただき、山澤本部員先生より祭典講話を頂戴いたします。そして明後日より、第42回ハワイ修養会も開催させて頂きます。昨日の真柱様のお言葉を指針として、私どもはこの旬を伝道庁創立60周年、また教祖130年祭へと向かう更なる躍進の機会として、逡巡を去り胸を張って陽気ぐらし世界実現への道をこのハワイの地において邁進させていただく覚悟でございます。

何とぞ親神様には私どものこの真実をお受け取り下さいまして、世界たすけの第一線に御用立て下さいますよう、そして世界中の人々が互いにたすけ合い睦み合う陽気ぐらしの世の状へと一日も早く立て替わりますようお導きのほどを、一同と共に慎んでお願い申し上げます。



6月月次祭祭典講話　本部員　山澤廣昭先生

昨日の庁長就任奉告祭に引き続き、陽気心一杯にハワイ伝道庁の6月の月次祭が勇んで勤め終えられました。実にご同慶の至りであります。ご指名を頂戴いたしましたので、一言、今の道の旬にあって心に思います処を申し述べさせて頂きます。しばらくの間、お付き合いの程、よろしくお願いいたします。

昨年の秋の大祭において論達第三号をお出しいただきました。そして、本部から各直属教会へ本部巡教があり、引き続き、それを受けて先月末まで全教会一斉巡教がなされたのであります。これは、論達の精神を全教に徹底し、教祖130年祭を仕切って全教よふぼくが一手一つに年祭活動を推し進めていきたい、と願う上からの運びであります。お道は今、正に年祭活動の渦中にあります。

「論達第三号」の精神、これは「おたすけ」に尽きます。真柱様は「論達」を通し、よふぼくみんなに、一人ひとりのよふぼくに「おたすけ」に取り組んでもらいたい。「おたすけ」のできるよふぼくになってほしい、と語りかけて下さっているのであります。

成人とは親に近づく歩みだと常に聞かせていただきます。親の思いは人間が陽気ぐらしをするところにあります。そもそも親神様が人間をお造りくだされたのも、約束の年限を待って、親が直接この世の表に現れ、世界一れつをたすけるために、この道を啓かれたのも、また教祖が御身をお隠しになったのも、皆陽気ぐらしの世界を造りあげるためであります。陽気ぐらしとは、親神様の子供である人間が、互いにたすけあって暮らす世の有様であります。また、心を澄ます生き方だと仰せになっています。

よくにきりないどろみづや
こゝろすみきれごくらくや　　十下り目-4つ

と「論達」に引用されていますが、これを逆に言えば、欲の心がこの世の地獄を造り出しているわけであります。自己中心の、我さえ良くば、今さえ良くばの欲の心遣いが、親神様がお望みの陽気ぐらしとは真逆の姿、人と人とが相争い、いがみ合い、傷つけ合う世の姿をつくり出したり、たすけあいどころか他人行儀な、人間関係が希薄な無縁社会といわれるような、寂しい世の有様を蔓延させているのであります。だからこそ「おたすけ」をと仰せられるのであります。

よふぼくは、親の思いを周りに伝えて、この世界を建て替えていくのだ、陽気ぐらしへと向かうために、お互いは人々の心を澄ましてたすけあう生き方を伝えていくのだ、と仰せくださるのであります。

天地抱き合わせの理を象る夫婦をはじめ、家族の在り方を正し、家族のおたすけということを掲げ、家族団欒ということも度々お聞かせいただきますが、自らの足元から陽気ぐらしの輪を広げていくのだという、よふぼくの日々のつとめの在り方、生き方についても「諭達」ではお示しくださっているのであります。

殊に「おたすけ」という点について、非常に事細かに、懇ろにお教えいただいています。おたすけは、まず周囲の人に言葉をかける、心を配るということから始まるのだと仰せ下さいます。もし、困っている人、病んでいる人が身のまわりにいるのなら、その人のために祈ろうじゃないか、お願いしようじゃないかというところから始まり、一歩踏み込んで、もしお困りなら何かお手伝いしましょうかと声を掛け、たすけの手を差し伸べるのであります。その小さな一歩を積み重ねる中に、その方が心の向きを変えていただけるようアドバイス一つもできるようになったなら、これはもう立派なおたすけということになるのであります。ですから、誰もがおたすけができるようになってほしいという「諭達」に込められた親のお気持ちは、おたすけは何も難しいことではないのだ、日頃の心がけ一つでできるのだ、と仰っていると思うのであります。我が身のこと、我が身内のことを考えるように、周りの人の上に心を掛け、気を配るのであります。そして悩んでいる人、苦しんでいる人がいれば、その人のために祈り、おつとめをして神様にお願いをするとともに、こまめに声をかけていく、できることからたすけの手を伸ばしていく、そういうことがおたすけの第一歩になるのだと仰っているのであります。ですからこれは、にをいがけ・おたすけ、即ち布教活動を促してくださっているというだけではなくて、私たちの身のまわりにおける日頃のよふぼくとしての在り方、生き方をも教えていただいていると思うのであります。

家族の陽気ぐらしも、やはり夫婦や親子、兄弟姉妹がお互いに心を掛け合うこと、言葉を掛け合うこと、たすけあうことを抜きには考えられないと思うのです。また、家族だけでなく、隣近所もそうです。会社や学校や、地域社会でもそうだと思います。我が家のことだけにこだわらず、周りの人たちの様子に心を配る。忙しそうにしていたら手伝う。何か悩みがありそうだと思ったら、声を掛けその胸の内を聞いてあげる。そうした心遣いの積み重ねが、周りの人をして己が心の向きを変えていただけるような姿になり、いずれは共々に人だすけに向かうようなおたすけに繋がっていくのだと思うのです。

親神様は、世界中の人間を全て隔てなく、たすけ上げるのだと仰せになります。しからば、親神様はいかにしてこの世界たすけの偉業を推し進めていこうとなさるのでしょうか。申すまでもなく、それは教祖の道具衆たる私たちお互いよふぼくのたすけ一条の活動を通してであり、教祖のたすけ一条の活動の足場であり、お互いが寄り集うところの教会を拠点として、この道を伝え広め、陽気ぐらしの輪を大きく、大きく伸び広めていかれるのであります。おふでさきに、

はや／＼とをもてでよふとをもへとも
みちがのふてハでるにでられん　　ニ-13

このみちをはやくつけよとをもへとも
ほかなるとこでつけるとこなし　　ニ-14

このはなしなんの事やとをもている
神のうちわけばしよせきこむ　　二-16

とあります。

いかほど親神様が世界たすけを急き込まれ、早く表へ出ようと思召されても「みちがのふてハでるにでられん」と仰せ下されてるのであります。親神様の親心、教祖の思召は、それを伝える人、形に顕していく場所なくして周りには伝わっていかない、道は広まっていかないのであります。この打ち分け場所が国々所々にある教会だと教えられるのであります。おぢばから親神様が、国々所々へ打ち回って、おたすけにお働きくださる上での出張り場所、親神様の理を打ち分ける場所であります。

教典を拝読させていただきますと、教会は神一条の理を伝える所であり、たすけ一条の取り次ぎ場所であると教えられます。また、土地所における陽気ぐらしの手本雛形なのだと仰せいただくのであります。ここ伝道庁も教会の一つでありますが、どの教会にありましても、それが天理教の教会であるならば、中央には親神様がおわし、その傍らには教祖がおわします。親神様・教祖が出張っていてくださり、お鎮まりくださっている所が教会なのであります。つまり、神一条の理を伝える所は、芯のところに親神様・教祖が居られる場所で、親神様のご守護と申しますか、お働きと言いますか、そうしたものが如実に現れてそれこそ喜びでもって親神様の御恩の感じられるたすけ一条の取り次ぎ場所でもあるのであります。そして同時に、そこに寄り集い、心をつなぎ、真実を尽くすよふぼくが親神様のご守護をフルに頂戴し、みんなが陽気に奮い立つ姿も明らかになって、教会は自ずと土地所の陽気ぐらしの道場にもなってくると思うのであります。更に、

一寸はなし神の心のせきこみハ
よふぼくよせるもよふばかりを　　三-128

よふぼくも一寸の事でハないほどに
をふくよふきがほしい事から　　三-130

と仰せになります。

陽気ぐらし世界を実現するためには、たすけ一条の活動を推し進める大勢のよふぼくが必要なのであります。親神様の親心、親神様のご守護の有り難さに目覚めたよふぼくが、たすけ一条の御用に立ち働く姿をお望みくださっているのであります。しかも、

この木いもめまつをまつはゆハんでな
いかなる木いも月日をもわく　　七-21

とも仰せになりますが、男女の別なく老若の分け隔てなく、一人ひとりの心の真実をもってよふぼくを見定めるんだと仰せになるのであります。また、

どのよふなところの人ができても
みないんねんのものであるから　　四-54

なんどきにかいりてきてもめへ／＼の
心あるとハさらにをもうな　　十一-78

と仰せくださいます。

この道を信仰する者がこの道に引き寄せられ、所属する教会に、あるいは布教所に寄り集うについては、それぞれに異なった機縁があり、その動機を問えば種々雑多な答えが返

ってこようかと思います。しかしながら、それは皆親神様の思惑によって親神様がその者をたすけ一条の御用に使おうと思召されて、お互いを教会へ引き寄せてくだされているのだと、仰せられるのであります。つまり、この道に引き寄せられているお互いは、をやの目に適った陽気ぐらし世界建設の用材、親神様のよふぼくなのでありまして、をやのご期待が私たちの双肩にかかっているのであります。その親神様のご期待にお応えし、よふぼくがたすけの日々を歩むとき、その道中でおたすけの喜びを味わわせていただくことができるのであります。

おふでさきに、

このさきハせかいぢううハ一れつに
よろづたがいにたすけするなら　十二-93

月日にもその心をばうけとりて
どんなたすけもするとをもゑよ　十二-94

とあります。

人の悩みや苦しみに出逢ったとき、何とかしてあげたいと、じっとしておれずたすけの手を差し伸べ、自分が出来得る精一杯の真実を尽くす、その心こそ、誠の心であります。人をたすける誠の心は、親神様のお心に沿い、天理に適う心でありますから、親神様はお受け取りくださり、いかなるたすけをも引き受けてくださるのであります。さらに、

しんちつに心にまことあるならば
どんなたすけもちがう事なし　十三-71

また、おさしづに、

誠一つの理は天の理、天の理なれば直ぐと受け取る、直ぐと返えすが一つの理。
（明治二三・四・一七）

とありますが、自分の心に誠真実の理が治まれば、親神様はどんなたすけも請け合ってくだされるわけで、そこには変わらぬ喜びを味わわせていただく実が培われるとともに、喜びがまた喜びを招く姿が生み出されてくると思うのであります。この何としてでもたすかっていただくのだという誠真実の心に、

たん／＼とよふぼくにてハこのよふを
はしめたをやがみな入こむで　十五-60

このよふをはじめたをやか入こめば
どんな事をばするやしれんで　十五-61

とあります如く、親神様がお働きくだされ、不思議な珍しいたすけもお見せ頂けるのであります。まことに有り難い限りであります。

全てのよふぼくには、「このよふをはじめたをや」つまり人間世界をお創め下された親神様が入り込んで働いてくださるのであります。そして、それこそ親神様がよふぼくに入り込んで、ぬくみ、水気、息一筋をはじめ、全てのご守護によってお仕込みくだされるならば、そのお働きというものは、どういうものにもなるやら知れん、と申されるのであります。一人ひとりのよふぼくの自覚の有る無し一つによって、またその自覚にふさわしい努力をするか否かによって、それこそおさしづに、

心の精神の理によって働かそう。精神一つの理によって、一人万人に向かう。神は心

に乗りて働く。心さえしっかりすれば、神が自由自在に心に乗りて働く程に。

（明治三一・十・二）

とお聞かせいただきますような姿をもお見せいただくことができるのであります。

一人ひとりの精神定め一つが、誠に大切なのであります。仕切りの時にあっては、実行する、動くということが大切であります。別席のお話に、「この道は、教祖のお教え下された御教えを、実地に身に行のうて通るのが第一のつとめである」とお聞かせくだされます。

またおさしづに、

日々八つ／＼のほこりを諭して居る。八つ諭すだけでは襖に描いた絵のようなもの。何遍見ても美し描いたるなあと言うだけではならん。めん／＼聞き分けて、心に理を治めにゃならん。この教というは、どうでもこうでも心に理が治まらにゃならん。（明治三二・七・二三）

とありますが、お聞かせいただく御教えはただ感心するだけでは駄目なのでありまして、しっかりと聞き分け、心に治め、身に実践し、味わい、動く中に、御教えも身に付き、心に治まるのであります。実践の旬、実行の時こそ三年千日、年祭活動の今であります。

おふでさきに、

これからハどうぞしんぢつむねのうち
はやくすまするもよふしてくれ　五-74

せかいぢうをふくの人てあるからに
これすまするがむつかしい事　五-75

いかほどにむつかし事とゆうたとて
わが心よりしんちつをみよ　五-76

ともお示しいただきます。

世界中の人々に親神様の思召を伝え、親心の有り難さに浸ってもらうのは、なかなか難しいことかもしれません。しかしながら、「わが心よりしんちつをみよ」と仰せくださるように、まずは私たちよふぼく一人ひとりが心底から自分の心を澄まして親心に沿いきり、仰せいただくところを信じて、強い意志をもって実践を心がけるとき、親神様・教祖は必ずや大きな喜びの姿をお与え下さるに違いないのであります。

ふじゆうなきよにしてやらう
かみのこころにもたれつけ　九下り目-二つ

と仰せになりますが、信仰というものは信ずるというところから始まり、凭れて通るところにその境地が味わえるのであります。

親神様に真っ正面から向き合い、教祖がお教えくだされた道に微塵の疑いも挟まず、心に治め信じて凭れて通り、私たちの成人の道として、また陽気ぐらし世界実現へのたすけの道として、お遺しくだされているひながたの道を、これは道でありますから実践し通ってこそのひながたの道でありますから、ひながたの道をひながた通りに辿らせていただき、仕切った期間を一途に勇んで通り切り、結果教祖130年祭のその時には、ご存命の教祖にようここまでついてきたなあと、にっこり笑うて、お喜びいただけるよう三年千日の仕切りを通り切らせていただきたいものと願ってやみません。

今日の日、その思いを新たに心に致しまして、本日の話を終えさせていただきます。

ご清聴ありがとうございました。

伝道庁創立60周年企画
ハワイ教友笑顔でひのきしん

ハワイ伝道庁創立60周年を来年に控え、本稿では、そのスローガンである「いまたすけあいのこの旬に　微笑みたたえてひのきしん」をテーマに、道のよふぼくとして、それぞれの職場で勇むハワイ教友を紹介します。

こんにちは。ネットハワイ布教所の中尾シドニーです。私は建築会社でプロジェクトエンジニアとして働いています。ハワイ伝道庁創立60周年のスローガンを日々の生活で実践することは結構簡単のようで、案外見逃してしまいます。

Q：職場ではどのようにして「たすけあい、笑顔でひのきしん」を実践していますか？

私の会社では道路工事や橋の補強、配管工事などいわゆるインフラ整備が中心で、州全体のプロジェクトになるとそれだけ多くの人の目がその事業に注がれることになります。ですから事業を効率的に、できるだけ早く終わらせることがとても大切です。

ある日、上司が昼休みの時間について話をしてくれました。それは、現場の作業員が昼休みを30分だけとっても、なかには多めに5～10分とる者もいる。それ自体は一つの事業や会社への影響は少ないかもしれないが、もし従業員180人が毎日10分余分に休んだら、一週間で9000分になり6.25日間を休んでいることになる。10分は大したことがないようだが、結果として事業進展の遅れとなり、損失は計り知れない、と話してくれました。それは、人だすけやひのきしんにも当てはまると思います。仮に500万人の天理教信者がいたとして、それぞれがたった30秒間の人だすけをすると、250万分になり、それは4.76年分に相当します。このように、一人ひとりの小さな努力が大きな影響を周りの人に与えることになるのです。ですから、出勤するときにゴミが落ちていたら拾う、職場では作業員が必要な物が全てそろっているか再確認するといった小さな事を習慣化していくことが大切だと思います。

ラナイ教会三代会長就任奉告祭

6月8日、中川オードリー・ラナイ教会三代会長就任奉告祭が山中庁長夫妻、片山本島大教会長夫妻臨席のもと、ラナイ教会で執り行われ、70名が参拝した。ラナイ教会は、1937年にラナイ島で設立され、初代会長に菅芳枝が就任し、1985年に菅ハリーが二代会長に就任して後、ホノルルに移転した。ハリー会長は昨年1月に出直されるまで、28年間会長の任をつとめた。オードリー会長は5月のおはこびで三代会長の理のお許しを戴いた。

婦人会だより

先月15日真柱様をお迎えして8代庁長就任奉告祭を無事に勤めさせて頂くことができました。大勢の方々のひのきしん本当にありがとうございました。この勇み心で来年の伝道庁創立60周年に向かって一手一つに進ませて頂きましょう。

■婦人会例会
7月の例会は修養会のためお休みです。

■女鳴物練習
7月16日（火）　9：00-9：45

■ヌアヌハレ慰問
7月13日（土）　9：30-10：30

■バザーひのきしん
毎週水曜日　9：00-12：00
ウエストハウス

※7月の月次祭直会当番は、本島グループです。よろしくお願い致します。

青年会だより

■中尾委員長よりメッセージ

8代庁長就任奉告祭、6月月次祭での駐車場整理やシャトルサービス、余興進行、会場セッティングや撤収、その他多くのひのきしんにご協力頂きありがとうございました。先月の会議では、ハワイ青年会が今後どのような活動を進めていきたいかという話から、2008年に開催した青年会創立90周年記念行事の話題になりました。ワイキキ・ビーチ・マリオットホテルで行った記念行事には250名が参加し、大成功だったことが思い出されました。そして今年は青年会が創立されて95年目を迎えます。この時旬に私たちがあらきとうりようとして、何が出来るのかを一緒に考えていきたいと思います。ここで改めて、青年会員の指針である「あらきとうりよう指針」を紹介し、道のあらきとうりようとして進むべき指針を再確認したいと思います。

一、我らあらきとうりようは、たすけ一条の喜びに徹し、世界たすけの先達となろう。

一、我らあらきとうりようは、進んでぢばに伏せ込み、をやの息をかけて頂こう。

一、我らあらきとうりようは、常にひながたを見つめ、教祖にお喜び頂ける心で通ろう。

これら三つの指針を今月から、会議の始めに拝読させていただき、陽気ぐらし実現へ向けて努力する上での指針とさせて頂きたいと思います。

■天理教ピクニック準備ひのきしん
7月3日（水）　19：00-
伝道庁

■月例会議
7月24日（水）　19：00-
レインボーハレ

女子青年だより

今年の11月におぢばで開催される女子青年大会に向けて、女子青年では伝道庁月次祭祭典後にミニバザーを行っています。皆さんのご協力をお願いします。また、女子青年は、8月に開催される天理教バザーで焼き菓子ブースを担当していますが、焼き方を担当して頂ける方を募集しています。ご協力いただける方は、美馬ティファニーまでご連絡ください。電話：455-9106

少年会だより

■こどもおぢばがえり

今年の夏のこどもおぢばがえりにはハワイから40名以上が参加を予定しています。

■天理教バザー

今年の天理教バザーは8月25日（日）に開催予定です。多くの方のひのきしん参加をお待ちしています。

6月行事報告

3日（月）・文化センター月次祭
・婦人会委員会
4日（月）・Adopt A Hwy清掃ひのきしん
5日（水）・奉告祭総務会議
8日（土）・婦人会ヌアヌハレ慰問
9日（日）・アロハバンド練習
10日（月）・天理文化センター委員会
12日（水）・真柱様ご到着
・青年会会議
15日（土）・8代庁長就任奉告祭
16日（日）・伝道庁月次祭
・サンデースクール
・布教委員会
17日（月）・真柱様ご出発
18日（火）・第42回ハワイ修養会(～7/12)
23日（日）・山中庁長家族一時帰本(～7/2)
・少年会夏のこどもおぢばがえり
お願いづとめ／ｵﾘｴﾝﾃｰｼｮﾝ
26日（金）・遥拝式
・バザーブースヘッド会議

7月行事予定

2日（火）・庁長家族帰任
・月例コミュニティーひのきしん
4日（木）・天理教ピクニック
6日（土）・Adopt A Hwy清掃ひのきしん
9日（火）・天理文化センター月次祭
・育成委員会
10日（水）・まこと/オリジンズ会議
12日（金）・修養会閉講式
13日（土）・婦人会ヌアヌハレ慰問
15日（月）・天理文化センター委員会
16日（火）・婦人会鳴物練習
・主事会準備会
18日（木）・少年会会議
20日（土）・主事会
21日（日）・伝道庁月次祭
・教会長布教所長会議
・サンデースクール
・アロハバンド練習
22日（月）・月例にをいがけデー
・祭儀委員会
24日（水）・青年会会議
26日（火）・遥拝式
・おてふり鳴物練習

TENRIKYO HAWAII DENDOCHO
2920 Pali Highway Honolulu, HI 96817
Phone : (808)595-6523 Fax : (808)595-7748
E-mail : dendocho@tenrikyo-hawaii.com

感謝、慎み、たすけあい
陽気ぐらしのキーワード

第43回天理教バザー

日時：2013年8月25日（日）　午前8時半～午後2時半
場所：天理文化センター（2236 Nuuanu Avenue, Honolulu, HI 96817）

天理教バザーは、ハワイ管内の教友が集い、親交を深めながら地域社会に貢献できる場です。バザーが長年にわたり続いているのは、ひのきしんに励む教友の方々の誠真実があってこそです。今年もぜひ皆様のお力添えを賜りますよう、どうぞよろしくお願い致します。

バザードネーションの受付日時・場所は以下の通りです。
8月11日(日)～21日(水)　午前10時～午後4時　於：天理文化センター
＊家具、電化製品、コンピューターなどは、お引取りできません。

スクリップ、チキンチケットは伝道庁、またはお近くの教会でお求め下さい。（バーベキューチキンにはチキンチケットが必要です。お間違えのないようお願いします。）＊お問い合わせは、ハワイ伝道庁（595-6523）まで。